



練馬区立関町北小学校スクールカウンセラー 曾我部 和広

## 登校しぶり・不登校

小中学校における不登校児童生徒数は 346,482 人（前年度 299,048 人）であり、前年度から 47,434 人増加（15.9%）し、11 年連続して増加し、過去最多になり約 34.6 万人との文部科学省の公表がありました（2024/10/31）。

増加の背景として、児童生徒の休養の必要性を明示した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の趣旨の浸透等による保護者の学校に対する意識の変化、コロナ禍の影響による登校意欲の低下、特別な配慮を必要とする児童生徒に対する早期からの適切な指導や必要な支援に課題があったことなどが考えられています。

学校が不登校児童生徒について把握した事実としては、小・中学校においては、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった。」（32.2%）が最も多く、続いて「不安・抑うつ等の相談があった。」（23.1%）、「生活リズムの不調に関する相談があった。」（23.0%）、「学業の不振や頻繁な宿題の未提出が見られた。」（15.2%）、「いじめ被害を除く友人関係をめぐる問題の情報や相談があった。」（13.3%）の順で多かったとのことです。

本校でも登校しぶりや学校に行きたくないと言って休むことや不登校のご相談がありますが、学校生活への不適應、学業不振、友人関係、生活リズムの不調が多いです。

学校生活への不適應のケースの場合、認知特性の偏りが原因していることが多いです。「周りの人がわかってくれない」「自分は何となく他の人とは違っている」などと考えてしまい、登校することが不安になって休んでしまうことがあります。

また、ゲームや習い事の関係で、睡眠のリズムが崩れてしまい、朝起きられなくて休んでしまうケースもあります。睡眠時間と睡眠のリズムを整えることは、健康な生活を送る上では非常に重要なことです。勉強することも大切ですが、睡眠時間を削ってまでやることは本末転倒です。小学生に必要な睡眠時間を確保するためには、夜の 9 時、遅くとも 10 時までには寝るようにしましょう。どうしても行うべきことがある時には、夜多くまで起きてやるのではなく、朝早く起きてすることが脳や体のためにも有効です。

学業不振の場合は、授業内容があまり理解できず、45 分間教室にいるのがつらくなり、教室から出てしまったり、休んでしまったりすることもあります。

認知特性の偏りや学業不振の場合は、前号でご紹介した検査（バックナンバーは HP にあります）を受けるともう少し関係性がわかることがあります。脅したり、叱ったり、おだてたりして解決するものではありません。お子様の状況をしっかり理解してあげましょう。

気になる方は、早めにスクールカウンセラーにご相談ください。

直接またはお電話で、副校長・担任・養護教諭・スクールカウンセラーにお申込みください。  
関町北小学校 電話：03-3920-1027

**11月から sigfy でも予約できるようになりました。**左の QR コードから申し込みます。

相談枠：①9:35 ②10:40 ③11:30 ④13:40 ⑤14:30 ⑥15:30 ⑦16:30

1回45分が基本です。枠外は、ご相談ください。勤務時間：9:30～18:00

**1月・2月の出勤予定日**

1月31日(金)午前

2月3日(月)、10日(月)、19日(水)、27日(木)

sigfy

